

心理学部心理学科の人材育成に関する目的と3つのポリシー 【学士（心理学）】

学部学科の人材育成に関する目的（甲南女子大学学則 第2条）

心理学の基礎を身につけた上で、社会や身近にある課題に気づき、客観的な観察力、論理的な思考力、数量的なデータ処理能力、AI等の先進的なテクノロジーの活用に加え、共感性及びコミュニケーション力を活用し、その解決に向けて取り組むことができる人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
DP1 知識・理解	(1)	心理学の総合的知識。様々な対象やアプローチの仕方をもつ心理学諸領域の概念や理論を幅広く理解している。	心理学部では、次のような学生を求めます。 1. 関心・意欲・態度 人の行動や心理に強い関心を持ち、それを一面的な見方ではなく、複眼的な視野で客観的に理解しようとする姿勢をもっている人 2. 知識・教養 幅広い心理学諸領域の知識を学ぶにあたり、高等学校までに履修した国語、数学、英語、地理歴史、公民、理科などの基礎的な学力を習得している人 3. 思考力・判断力・表現力 社会や身近にある課題に気づき、観察・観測されたデータや的確な情報に基づいて自分の意見をまとめ、表現できる人 4. 協働性・主体性 自主的、積極的に学ぶ意欲を持って、実験・実習などの少人数クラスによく適応し、主体的にグループワークに参加しようとする態度をもっている人
	(2)	心理学の研究手法。心理学の多様な研究方法と分析方法を理解し、問題や目的に応じてデータ収集の仕方や分析方法を選択することができる。	
	(3)	心の健康と心理支援の理解。精神的な健康や心理的な問題について基礎知識を有し、必要に応じて適切な心理支援を求められることができる。	
DP2 汎用的技能	(1)	心理学部では、基本となる科目進行に加えて、それぞれの学生の興味や進路に応じて3つのプログラム（履修推奨科目群）を設定している。 1. 基本的な科目進行としては、まず心理学全般にわたる基礎知識や心理統計の基礎を学びつつ、同時に大学での学びに必要なアカデミック・スキルを習得する。 2. 次の段階として、個別の専門領域の学びを深めるとともに、実際に実験や調査、心理査定を実施し、より専門的なデータ処理や論理的な文章作成を学ぶ。 3. さらに、自ら主体的に問題を導出し、その解決・解明に向けて研究・開発を立案、実施するプロジェクト型学習やプロジェクト実践へと進む。 4. 公認心理師プログラムでは、心の問題や心理支援の基礎的な知識と技能を学ぶ。 5. キャリア・マネジメントプログラムでは、社会で活躍できることをめざして、集団や組織に関する心理学や、AIをはじめとするテクノロジーの活用を学ぶ。 6. ライフデザインプログラムでは、自分や他者の心を大切にしながら、精神的な豊かさを実現するために生活の中で活かせる心理学の知見を学ぶ。	
	(2)	基礎的な研究能力。実験や調査の実施を経験し、数量的なデータの収集や統計的な分析を行い、その結果を図表化を含め適切に記述、考察し、発表する基礎的な研究能力を身につけている。	
	(3)	情報収集とその活用。的確な情報検索ができ、得られた情報の精度を吟味した上で、必要な情報をもとに自ら判断することができる。	
DP3 態度・志向性	(1)	コミュニケーション力。他者の意見を聞き、自分の考えを伝え、円滑で有益なコミュニケーションを維持する力を身につけている。	
	(2)	人の多様性への尊重。人の多様性を深く理解し、互いの個性を尊重しつつ、様々な境遇にある人への共感や配慮ができる。	
	(3)	他者との協働。自分の知識や能力を社会の中で発揮するとともに、他者の力を借り、協力する姿勢をもっている。	
DP4 統合的な学習経験と創造的な思考力	(1)	成長・変化を受け入れる姿勢。人は生涯、成長・発達していくことを前提に、その時々に必要な知識・技能を学び続ける姿勢をもっている。	
	(2)	新たな問題への対処。困難な課題や逆境に直面しても、心理学の知識や身につけた技能を使って、問題解決に向けて対処することができる。	
	(2)	社会貢献。社会や身近にある課題に気づき、自分が身につけた知識や技能を活用すると共に、他者と協力しながら、社会環境の改善に貢献する姿勢をもっている。	